

游美

- 1 海野 悦子さんの作品と作品についての言葉
- 2 設立30周年記念行事 副会長 滝田賢三
- 3 30周年記念 岩井希久子氏講演会
企画委員(講演会担当) 佐伯佳子
- 4 茶話会／友の会会員作品展
- 5 国内美術鑑賞旅行のあゆみ
- 6 海外美術鑑賞旅行のあゆみ
- 7 海外美術鑑賞旅行のあゆみ
(ヨーロッパ編)
- 8 海外美術鑑賞旅行のあゆみ
(アメリカ編)／ギャラリートーク
- 9 国内美術鑑賞旅行
- 10-11 会員の声(アンケートから)
- 12 学芸員に聞く 今瀬 佐和 首席学芸員
- 13 作家探訪 富山 明峰先生
- 14 心に残る私の一点
訂正／あとがき



海野 悦子「ひるさがりのアトリエ」

2010年／油彩・カンヴァス／F80号／茨城県展

人物画を描くとき、いつも心掛けていることは、基本のデッサンをしっかりと描き、モデルさんに対し心を込めて、美しさや内面の優しさを表現できればとの思いで描いています。気の合う仲間と、サークルで人物画のデッサンの勉強をしておりますが、未だなかなか思うようにはいきません。

この作品は、9年程前に、初めて80号のカンヴァスに挑戦し、アトリエ（ロット）を一人でお借りして描いたものです。当時、別の会で教えて頂いてい

た先生が入院されていてお話ができず、県展に出品してみようか、とても迷いましたが、おずおずと初めて出品し入選できたものです。先生に県展出品したこともお話できないままになってしまったことは、今でもとても心残りです。現在も拙い絵を描き続けています。

素晴らしい「游美」の表紙を飾るには、とても未熟で烏滸がましく思いますが、私にとっていろいろな思いの詰まった一枚です。
(水戸市在住)



茨城県近代美術館友の会 設立 30 周年記念行事を振り返って

副会長 滝田 賢三

2017 年の春より友の会設立 30 周年記念行事をどうするか検討をしてきておりましたが、2018 年 4 月 14 日の理事会、代議員会において予算が承認され、実施に向け動き出しました。

近代美術館の開館は 1988 年 10 月 1 日でしたが、友の会の活動はこれより早く 1988 年の 7 月に 12 名の発起人により「友の会設立趣意書」が発表され、会員募集を開始。同年 9 月 17 日付けで会則が制定されました。会員数も同年中に 2114 名となり、当時、日本一の美術館友の会と言われました。このことは、茨城県近代美術館に対する県民の期待の大きさが大変なものであったと推察されます。以来 30 年、絶えることのない活動を続け、ここに 30 周年記念行事を実施できたのも、会員の方々のご理解、ご支援と、美術館の歴代の館長をはじめ職員の方々のご協力があったからこそと、あらためて感謝申し上げます。

2018年10月20日 茶話会、記念式典、記念講演会

友の会は設立以来、会員の集まる総会は開催されておりませんでした。30 年の節目にあたり、懐かしい方々とお会いできる懇親の場を設けようと考え茶話会を計画しました。呼びかけに約 90 名の方が参加されました。この会場に友の会活動の記録が貼りだされました。これによりますと、海外美術鑑賞旅行 30 回、国内美術鑑賞旅行 62 回、絵画などの講習会は 45 回が実施されてきており、楽しかった思い出や苦労話に盛り上がりました。



友の会設立 30 周年記念式典会場（美術館講堂）と挨拶する鈴木誉志男会長

また、今年で 90 号になる会報誌「游美」も並べられました。毎年 3 号ずつ途切れずに発行されてきたことは、素晴らしく誇れることで、歴代の会報委員に敬意を表したいと思います。

記念式典では、友の会鈴木会長の挨拶と、近代美術館尾崎館長のご祝辞をいただきました。

また、友の会設立と同時に入会された 30 年継続の会員の方が 86 名おります。この方々に、感謝をこめて記念品の「茨城県近代美術館所蔵作品図録Ⅱ」の贈呈式を行いました。

記念講演会では、講師として絵画保存修復家の岩井希久子氏をお招きしました。氏は国内外から脚光を浴びている絵画保存・修復界のトップランナーで講演会には 200 人以上の会員が来場し、有意義な講演会になりました。

他の記念行事

この他、記念行事として、座談会（2018 年 6 月 23 日、「游美」89 号 2－4 頁）、会員作品展（11 月 6～18 日、本号 4 頁）、アメリカ美術鑑賞旅行（5 月 22 日～29 日、「游美」89 号 8－9 頁）、四国しまなみ海道美術館巡り旅行（11 月 27 日～29 日、本号 9 頁）なども実施いたしました。いずれも成功裏に終了できたのも、会員の皆様及び担当された企画委員、会報委員の方々の絶大なご協力によるものと厚くお礼申し上げます。

（水戸市在住）



会員歴 30 年の会員 86 名を代表して挨拶する櫻村忠芳さん

2018年10月20日

30周年記念講演会を 顧みて

企画委員(講演会担当) 佐伯 佳子

茨城県近代美術館友の会設立30周年を迎えるに当たり、記念行事実施についての話し合いが2017年7月、会長、副会長、事務局長、企画・会報委員によって行われました。審議を重ねた結果、行事の一つとして記念事業にふさわしい講演会を開催することに決まり、早速実現に向け講演会実行委員会を立上げ骨子を決めました。

2017年9月講演者の選出会議は長時間話し合いの末、講師に推薦されていた美術史家、美術評論家、日本画家、建築家、絵画保存修復家の方々から絵画保存修復家岩井希久子氏に講師を依頼することになりました。岩井先生の著書の中で「修復の理念は絵と対話し画家の絵に対する思いを可能な限り再現すること」。その理念に共鳴し講演者に推薦した者として心の引き締まる思いが致しました。2017年12月、先生を良くご存知の近代美術館小泉顧問(当時は美術課長)がご厚意で直接連絡を取って下さり、先生も快諾して下さいました。

講演会当日(2018年10月20日)は大勢の人で賑わい、会場は先生の人柄もあり、和やかな空気に包まれ好評を博しました。講演の内容は断片に聞いたことを書き記すことは烏鵲がましいので三名の方の感想をご紹介します。

先生の絵画保存修復家へのきっかけと今に至る歩みに感心された方は、若き日に画家を目指し悩んでいた折にお父様が“日本には画家は沢山いるが、絵画保存修復家は少ない”その助言で絵画保存



ご講演中の岩井希久子氏

修復家を目指したこと、近代美術館開館時に関わった時のエピソード、ご結婚後ご主人の英国留学にお嬢さんを連れて渡英し、4年間滞在して修復の研鑽をしたこと、帰国後、修復に関わった作品の裏話など、その他興味深い話の連続で時の経つのも忘れていました。

講演会であまり聞くことのなかった絵画修復の技術と方法に驚かれた方は、修復した名画のゴッホ「ひまわり」、モネ「睡蓮」、山下清「長岡の花火」など作品の修復前と後の解説や絵画を劣化させない作品保存方法「脱酸素密閉」の発案、開発のお話など貴重な記録映像を見ながらお話を聞けたので良く理解出来ました。また先生が綿棒を舐めながら修復されているお姿を映像で見て感激しました。

日本の絵画修復保存の現状と海外との違いに関心があつた外国の方は、先生が日本における美術館の絵画修復の実態と世界の美術館とを比較し、現在、修復センターの設立を計画しておられるお話や、先生の文化を未来に繋ぎたいという情熱に感動しました。

講演終了後、聴衆から大きな拍手が起こり、会場を出る参加者の方々の満足した笑顔を見て安堵の胸をなでおろしました。

一般的にあまり知られていない絵画保存修復家の仕事と、自身が関わった仕事の一端を先生は真摯に時にはユーモアを交えてお話下さいました。“時間を延長してすみません”と静かに言われ、直ぐにお疲れの様子も見せず、サイン会でこやかに一人一人とお話をなさる先生の最高のおもてなしに感じ入りました。

今回の友の会設立30周年記念講演会の開催に当たり、ご協力いただきました美術館の職員の方々に厚くお礼申し上げます。

結びに、岩井希久子先生のご健勝と益々のご活躍をお祈りいたします。

(ひたちなか市在住)



講演会後 著書のサイン会 (左から3人目 岩井希久子氏、左から2人目 筆者)

30周年記念行事の日 茶話会が行われました 2018年10月20日

近代美術館友の会 30 周年記念行事が行われた 10 月 20 日、記念式典・講演会に先がけて地階講座室で茶話会が行われました。11 時の受付開始まもなくから会員の方々が集まってくださり、控え室の会議室では和やかな空気が流れていました。田山興誠友の会副会長にご挨拶をいただき、田口克弥美術館副館長の乾杯のご発声でパーティーがスタート。壁には、30 年間の友の会の歩みとして講座、海外旅行・国内旅行の記録が地図と共に貼られ（注）、机の上には会報誌「游美」の 30 年分の厚みを綴じたものが用意されました。テーブルのお料理は美術館レストランのプティ・ポワルにお願いしたところ、お菓子まで手作りしてくださいました。コーヒーは鈴木誉志男友の会会長が当日朝自ら淹れてくださったというサザコーヒーがたっぷり。温かい雰囲気の中会話も弾んで、会員相互の交流が図られた 70 分間でした。

（注）「国内美術鑑賞旅行のあゆみ」5 頁
 「海外美術鑑賞旅行のあゆみ」6 頁
 「海外美術鑑賞旅行のあゆみ
 （ヨーロッパ編）」7 頁
 「海外美術鑑賞旅行のあゆみ
 （アメリカ編）」8 頁
 を、ご参照ください。



参加者 90 名の茶話会

茨城県近代美術館友の会会員作品展

2018年11月6日～18日

友の会設立 30 周年記念行事の一つとして会員作品展を開催いたしました。この作品展には会員の方はもちろん、作品出品者の友人知人が多数見に来てくださいますので、美術館来場者増や友の会会員増にも繋がると考えております。

会期は美術館側のご配慮により、ポーラ美術館展の開催期間中の 11 月 6 日から 18 日までのもっともよい 2 週間と決めていただきました。会場も美術館 1 階のアートフォーラムの最高の場所に決まり準備に入りました。どの様な作品を対象とするか検討され、陶芸や彫刻などの要望もありましたが、会場の広さや作品の安全確保などの問題もあり、絵画、写真を中心とすることにしました。絵画の大きさは茨城県芸術祭展覧会を見習い、80 号以下としました。

作品は、なかなかの力作揃いで洋画 19 点、日本画 9 点、パステル、写真、デッサン、藍染めもあり、合計 36 点が展示できました。展示にあたっては館の美術課長のご指導もいただき、スッキリと見やすく展示できたと思います。

また、このような作品展を続けて開催してほしいとの多数の声もいただき、好評のうちに 2 週間の展示を終了しました。



美術館 1 階アートフォーラムで行われた会員作品展



国内美術鑑賞旅行のあゆみ 茨城県近代美術館友の会

回	都道府県：市区町村	実施日	参加者数	訪問先 *美—美術館、博—博物館 訪問当時の名称で記載
1	東京：世田谷	1989.7.6	166名	世田谷美
2	神奈川：横浜、熱海	1989.11.7～8	85名	三溪園・三溪記念館、MOA 美
3	栃木、茨城：足利、つくば	1990.6.19	208名	栗田美、つくば美
4	岡山：倉敷、岡山	1990.10.31～11.1	90名	大原美、竹久夢二美
5	千葉：佐倉	1991.6.13	205名	川村記念美、国立歴史民俗博
6	福島：宮城：福島、仙台	1991.10.1～10.2	111名	福島県立美、宮城県美
7	栃木：益子、宇都宮	1992.6.6	159名	益子参考館、栃木県立美、栃木県立博
8	長野：小諸、佐久、長野	1992.11.5～6	120名	小山敬三美、佐久市立近代美、長野県信濃美・東山魁夷館
9	千葉：千葉、佐倉	1993.6.5	160名	千葉県立美、川村記念美
10	新潟：長岡、新潟、新発田、阿賀野	1993.11.5～6	122名	新潟県立近代美、新潟市美、北方文化博、清水園・足軽長屋、市島酒造、瓢湖
11	群馬：高崎、桐生	1994.6.4	158名	群馬県立近代美、桐生市大川美
12	山梨：甲府、北杜	1994.11.9～10	110名	山梨県立美、清里北澤美
13	福島：郡山	1995.5.18	147名	郡山市立美、高柴デコ屋敷
14	岩手：花巻、盛岡	1995.11.1～2	119名	宮沢賢治記念館、盛岡橋本美、岩手県立博、萬鉄五郎記念美
15	福島：福島	1996.5.19	152名	福島県立美
16	神奈川：箱根、真鶴	1996.10.30～31	152名	箱根美、箱根彫刻の森美、成川美、真鶴町立中川一政記念館
17	栃木：宇都宮、鹿沼	1997.5.16	214名	宇都宮美、川上澄生美
18	島根、広島：安来、広島	1997.10.30～11.1	90名	足立美、広島県立美、ひろしま美、平和記念資料館
19	埼玉：さいたま、松山	1998.6.18	177名	埼玉県立近代美、原爆の図丸木美
20	静岡：静岡、長泉	1998.11.5～6	89名	静岡県立美、ベルナル・ビュフェ美
21	千葉：佐倉	1999.5.14	176名	佐倉市立美、川村記念美
22	愛知：名古屋	1999.10.28～29	121名	愛知県美、名古屋ボストン美、名古屋市美、徳川美
23	長野：上田、東御	2000.11.1～2	100名	信濃デッサン館、無言館、梅野記念絵画館
24	福島：郡山、北塩原	2001.5.20	175名	郡山市立美、諸橋近代美、毘沙門沼
25	静岡、神奈川：伊東、箱根、湯河原	2001.10.18～19	88名	伊豆一碧湖美、池田 20 世紀美、箱根芦ノ湖美、湯河原ゆかりの美
26	栃木：日光、宇都宮	2002.5.21	150名	小杉放菴記念日光美、栃木県立美
27	長野：長野、小布施	2002.10.24～25	97名	長野県信濃美・東山魁夷館、中島千波美、北斎館、北野美、小布施
28	群馬：高崎、館林	2003.5.21	135名	群馬県立近代美、群馬県立館林美
29	奈良、京都：奈良、京都	2003.11.5～7	118名	奈良国立博、大和文華館、中野美、松柏美、京都市美、薬師寺、東寺、南禅寺
30	栃木、茨城：宇都宮、下館	2004.6.12	70名	宇都宮美、しもだて美
31	新潟：新潟	2004.10.14～15	62名	新潟市歴史博、新潟市美、新潟県立近代美
32	神奈川：箱根、横浜	2005.5.29～30	86名	ポーラ美、箱根美、横浜美
33	福島：郡山、柳津	2005.10.15	83名	郡山市立美、やないづ町立斎藤清美
34	群馬：桐生、みどり	2006.6.11	120名	大川美、富弘美
35	宮城：仙台、松島	2006.10.22～23	85名	宮城県美、藤田喬平ガラス美
36	千葉：佐倉	2007.5.27	112名	川村記念美、国立歴史民俗博
37	長野：諏訪	2007.10.16～17	93名	原田泰治美、北澤美、サンリツ服部美
38	栃木：宇都宮	2008.6.3	97名	栃木県立美、宇都宮美
39	神奈川：平塚、横須賀、葉山	2008.10.4～5	64名	平塚市美、横須賀美、山口蓬春記念館、神奈川県立近代美・葉山館
40	東京：港、台東	2009.5.27	96名	国立新美、国立西洋美
41	山梨：甲府、韮崎	2009.10.27～28	65名	昇仙峡影絵の森美、韮崎大村美、山梨県立美、山梨県立文学館
42	千葉：千葉	2010.5.26	70名	千葉市美、千葉県立美
43	神奈川：横浜、箱根	2010.10.6～7	48名	横浜美、成川美、ポーラ美、箱根ガラスの森美
44	千葉：千葉	2011.7.7	63名	ホキ美、千葉市美
45	埼玉：さいたま、川島	2011.10.27	55名	埼玉県立近代美、遠山記念館
46	東京：町田	2012.6.6	65名	町田市立国際版画美、西山美
47	兵庫：神戸	2012.11.6～7	53名	小磯良平記念館、神戸市立博
48	神奈川：横浜、町田	2013.7.10	113名	横浜美、武相荘
49	福島：福島、郡山	2013.9.10	77名	福島県立美、郡山市立美
50	北海道：札幌、美瑛、上富良野、美瑛	2013.10.29～31	28名	北海道近代美、三岸好太郎美、アルテピアッツァ美瑛、後藤純男美、拓真館、新星館
51	神奈川：箱根	2014.6.2～3	52名	玉村豊男ミュージアム、ポーラ美、岡田美
52	福島、茨城：いわき、北茨城	2014.11.20	42名	いわき市立美、茨城県天心記念五浦美、白水阿弥陀堂
53	東京：千代田、中央	2015.4.11	53名	三菱一号館美、プリヂストン美
54	山形：山形、村山、天童	2015.11.12～13	68名	山寺後藤美、真下慶治記念美、出羽桜美、斎藤真一心の美、山形美
55	東京：墨田、渋谷	2016.4.3	90名	東京江戸博、山種美
56	福島、茨城：郡山、北茨城	2016.9.1	45名	郡山市立美、茨城県天心記念五浦美
57	茨城：常陸太田、日立、高萩、北茨城	2016.10.27	44名	KENPOKU ART2016 茨城県北芸術祭 各会場
58	京都：大山崎、京都	2016.11.24～26	40名	大山崎山荘美、京都国立近代美、大徳寺聚光院、無鄰菴、広隆寺、永観堂
59	青森：十和田、七戸、青森	2017.5.10～12	40名	十和田市現代美、鷹山宇一記念美、常田健 土蔵のアトリエ美、棟方志功記念館、青森県立美
60	東京：台東、墨田	2017.9.15	39名	東京都美、両国国技館
61	福島、茨城：いわき、北茨城	2017.11.22	41名	いわき市立美、茨城県天心記念五浦美
62	東京：港、台東	2018.4.22	43名	泉屋博古館分館、国立西洋美

海外美術鑑賞旅行のあゆみ 茨城県近代美術館友の会

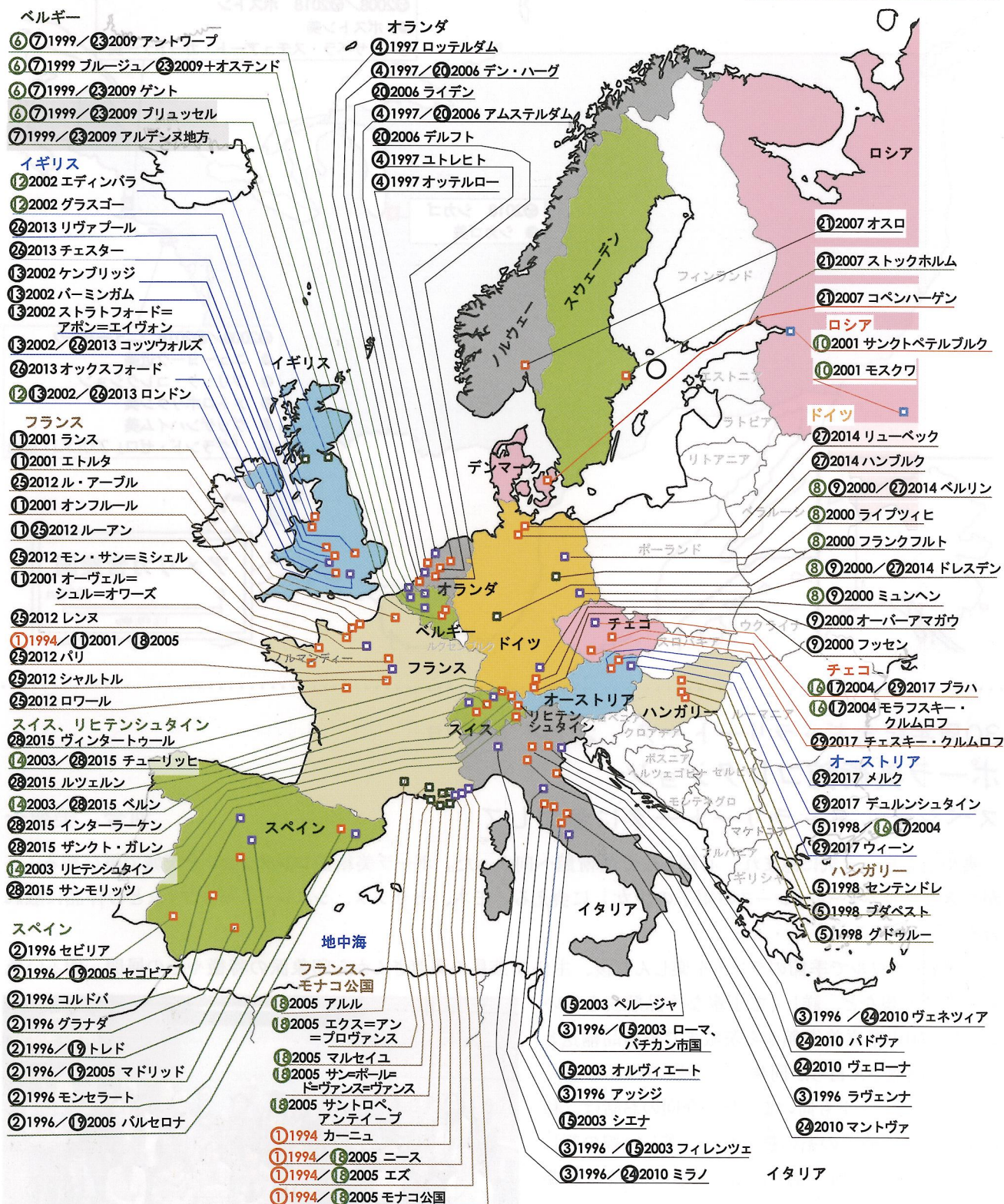
回	訪問国	実施日	参加者数	訪問先と主な美術館 *美一美術館、博一博物館、都市・地名太字
1	フランス モナコ公国	1994.11. 22 ~ 29	42名	パリ: オルセー美、ルーブル美、ニース: マティス美、シャガール美、ジュール・シェレ美、エズ・マントン: ジャン・コクトー美、モナコ公国: 大公宮殿。
2	スペイン	1996.1. 27 ~ 2.3	57名	バルセロナ: ミロ美、ピカソ美、サグラダ・ファミリア教会、モンセラート: モンセラート修道院、マドリッド: プラド美、ソフィア王妃芸術センター、ティッセン美、トレド: サント・トメ教会、グラナダ: アルハンブラ宮殿、セゴビア。
3	イタリア バチカン市国	1996.11. 24 ~ 12.3	58名	ローマ: バルベリーニ宮殿(国立古典絵画館)、アッンジ: サン・フランチェスコ大聖堂、フィレンツェ: ウフィツィ美、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会、ラヴェンナ: モザイクの壁画、ヴェネツィア: アカデミア美、ミラノ: スフォルツェスコ城、ブレラ美、ミラノ大聖堂、バチカン市国: バチカン美。
4	オランダ	1997.11. 26 ~ 12.3	63名	デン・ハーグ: マウリッツハイス美、ロッテルダム: ボイマンス・ヴァン・ベニンゲン美、アムステルダム: アムステルダム国立美、ゴッホ美、アムステルダム市立美、オッテルロー: クレラー・ミュラー美、ユトレヒト: オルゴール博。
5	オーストリア ハンガリー	1998.11. 28 ~ 12.5	61名	ウィーン: ウィーン美術史美、バロック美、オーストリア応用芸術美、シェーンブルン宮殿、ブダペスト: ハンガリー国立美、ブダペスト歴史博、グドゥルー宮殿、聖母マリア聖堂、センテンドレ: コヴァーチ・マルギット美、フェレンツィ美。
6	ベルギー	1999.7. 12 ~ 19	16名	ブリュッセル: ベルギー王立美、アントワープ: アントワープ王立博、マイヤー・ファン・デン・ベルグ美、モレトウス印刷博、ノートルダム大聖堂。
7	ベルギー	1999.11. 17 ~ 24	63名	ブリュッセル: ベルギー王立美、アントワープ: アントワープ王立博、マイヤー・ファン・デン・ベルグ美、ノートルダム大聖堂、ブルージュ: グルーニング美、ベギン修道院、アルデンヌ地方: モダーヴ城、デュルビュイ: 世界一小さな町。
8	ドイツ	2000.7. 12 ~ 19	34名	ミュンヘン: アルテ・ピナコテーク、ノイエ・ピナコテーク、レンバツハ美、フランクフルト: シュテデル美、ベルリン: ペルクグリュン美、ゲマルデ美、ライプツィヒ: ライプツィヒ造形美、ドレスデン: アルベルティヌム美、アルテ・マイスター絵画館、ツヴィンガー宮殿。
9	ドイツ	2000.11. 15 ~ 22	50名	ミュンヘン: アルテ・ピナコテーク、ノイエ・ピナコテーク、レンバツハ美、オーパーアマガウ: フレスコ壁画、ベルリン: ペルクグリュン美、ゲマルデ美、バイエルン州: ビーナス教会、ノイシュバンシュタイン城、ドレスデン: アルベルティヌム美、アルテ・マイスター絵画館、ツヴィンガー宮殿。
10	ロシア	2001.7. 3 ~ 10	30名	モスクワ: プーシキン美、トレチャコフ美、クレムリン、ノヴォデヴィチ修道院、サンクトペテルブルク: エルミタージュ美、国立ロシア美、聖イサク寺院、エカテリーナ宮殿。
11	フランス	2001.11. 27 ~ 12.4	49名	パリ: ルーブル美、マルモッタン美、オルセー美、オーヴェル＝シュール＝オワーズ: ゴッホゆかりの地、ランス: サン・ドニ美、藤田のチャペル、オンフルール: プータン美、ルーアン: ルーアン大聖堂。
12	イギリス	2002.6. 27 ~ 7.4	40名	ロンドン: ナショナル・ギャラリー、テート・ブリテン美、テート・モダン、コートールド・ギャラリー、オルソープ、エディンバラ: スコットランド国立絵画館、スコットランド近代美、グラスゴー: ケルビングロープ美。
13	イギリス	2002.11. 27 ~ 12.4	39名	ロンドン: ナショナル・ギャラリー、テート・ブリテン美、コートールド・ギャラリー、オルソープ、ケンブリッジ: フィッツウィリアム美、バーミンガム: バーミンガム博・美、ストラットフォード・アポン・エイボン。
14	スイス、リヒテン シュタイン	2003.6. 26 ~ 7.4	28名	チューリッヒ: チューリッヒ美、ビュールレ・コレクション、ベルン: ベルン美、サンモリッツ、ヴァンタートゥール: オスカー・ラインハルト美、リヒテンシュタイン: リヒテンシュタイン美。
15	イタリア バチカン市国	2003.11. 24 ~ 12.1	52名	ローマ: ボルゲーゼ美、オルヴィエート: 天空の街、フィレンツェ: ウフィツィ美、ピッティ宮殿、サンマルコ美、ヴァザーリ回廊、サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂、シエナ、ペルージャ、バチカン市国: バチカン美。
16	チェコ オーストリア	2004.6. 21 ~ 28	37名	プラハ: プラハ国立美、ミュシャ美、モラフスキークルムロフ: モラフスキー城、ウィーン: ウィーン美術史美、レオポルト美。
17	チェコ オーストリア	2004.11. 29 ~ 12.6	25名	プラハ: プラハ国立美、ミュシャ美、モラフスキークルムロフ: モラフスキー城、ウィーン: ウィーン美術史美、レオポルト美、オーストリア美。
18	フランス モナコ公国	2005.6. 20 ~ 27	21名	マルセイユ: ノートルダム・ド・ラ・ガルド聖堂、ニース: マティス美、シャガール美、アルル: 古代ローマ遺跡、サントロペ: アンシエード美、アンティブ: ピカソ美、サン＝ポール＝ド＝ヴァンス: マーク財団美、エクス＝アン＝プロヴァンス: セザンヌのアトリエ、ヴァンス: ロザリオ礼拝堂、エズ、モナコ公国: 大公宮殿。
19	スペイン	2005.11. 25 ~ 12.3	41名	バルセロナ: カタルーニャ美、ミロ美、ピカソ美、サグラダ・ファミリア教会、アントニ・ガウディ建造物、マドリッド: プラド美、ソフィア王妃芸術センター、トレド: サント・トメ教会、セビリア: セビリア美、グラナダ: アルハンブラ宮殿、ミハス。
20	オランダ	2006.11. 21 ~ 28	38名	デン・ハーグ: マウリッツハイス美、アムステルダム: アムステルダム国立美、ゴッホ美、オッテルロー: クレラー・ミュラー美、ライデン: ラーケンハル市立博。
21	スウェーデン ノルウェー デンマーク	2007.11. 14 ~ 21	36名	ストックホルム: スtockホルム国立美、オスロ: ムンク美、コペンハーゲン: コペンハーゲン美、ニイ・カールスベルグ・グリブテク美。
22	アメリカ	2008.11. 18 ~ 25	25名	ボストン: ボストン美、イザベラ・スチュワート・ガードナー美、ニューヨーク: メトロポリタン美、ニューヨーク近代美、グッゲンハイム美。
23	ベルギー	2009.12. 9 ~ 16	31名	ブリュッセル: ベルギー王立美、ルネ・マグリット美、アントワープ: アントワープ王立博、ノートルダム大聖堂、オステンド: アンソールの家、アントワープ: アントワープ王立美、ノートルダム大聖堂、ルーベンスの家。
24	イタリア	2010.11. 8 ~ 15	27名	ミラノ: アンブロジーナ絵画館、ミラノ大聖堂、マントヴァ: ドゥカーレ宮殿、パルマ: パルマ国立美、ヴェローナ: ラジョネ宮殿、ジュリエットの家、ヴェネツィア: ドゥカーレ宮殿、パドヴァ: スクロヴェニ礼拝堂。
2011年東日本大震災により中止				
25	フランス	2012.3. 22 ~ 29	36名	パリ: ルーブル美、オルセー美、オランジュリー美、レンヌ: レンヌ美、ル・アーヴル: マルロー美、ルーアン: ルーアン大聖堂、ノルマンディ: モン・サン＝ミシエル、ロワール: アンボワーズ城、シュノンソー城。
26	イギリス	2013.4. 9 ~ 16	34名	ロンドン: ナショナル・ギャラリー、テート・ブリテン、ロンドン・アイ、チェスター、リバプール: ウォーカー美、テート・リバプール美、オックスフォード: アシュモLEAN博、コッツウォルズ、ストラットフォード・アポン・エイボン。
27	ドイツ	2014.4. 14 ~ 21	36名	ハンブルク: ハンブルク市立美、リュベック: 市庁舎、ベルリン: ペルリン絵画館、ベルリンの壁、ベルガモン博、ドレスデン: アルベルティヌム美、アルテ・マイスター絵画館、ツヴィンガー宮殿、フラウエン教会。
28	スイス	2015.5. 25 ~ 6.1	44名	チューリッヒ: チューリッヒ美、ビュールレ・コレクション、ベルン: ベルン美、バウル・クレーセンター、ヴァンタートゥール: オスカー・ラインハルト美、サンモリッツ: セガンティーニ美、ザンクト・ガレン: ザンクト・ガレン修道院付属図書館・大聖堂、インターラーケン: ユングフラウヨッホ等登山電車発着地、氷河特急、ルツェルン。
2016年世界状況(ISテロ問題)不穩に伴い中止				
29	チェコ オーストリア	2017.10. 23 ~ 30	36名	プラハ: プラハ国立美、ミュシャ美、プラハ城、カレル橋、メルク: メルク修道院、ドナウ川遊覧、チェスキー・クルムロフ: エゴン・シーレ・アートセンター、クルムロフ城、デュルンシュタイン、ウィーン: ウィーン美術史美、レオポルト美、ベルヴェデーレ宮殿、ホーフブルク王宮、シェーンブルン宮殿。
30	アメリカ	2018.5. 16 ~ 23	32名	シカゴ: シカゴ美、ボストン: ボストン美、イザベラ・スチュワート・ガードナー美、ニューヨーク: メトロポリタン美、ニューヨーク近代美、フリック・コレクション、「グランド・ゼロ」2001.9.11 跡地。

海外美術鑑賞旅行のあゆみ (ヨーロッパ編)

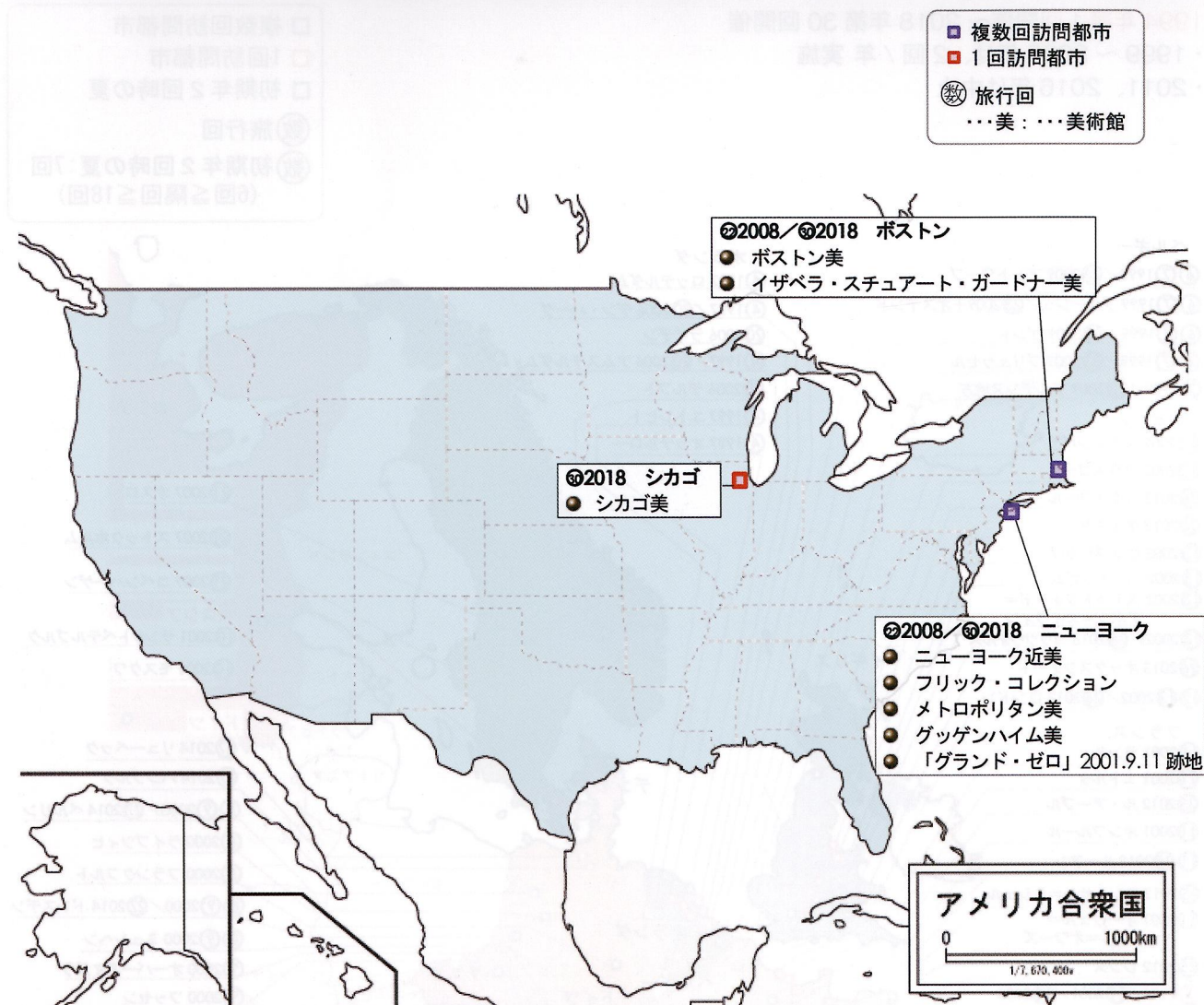
1994年第1回開催～2018年第30回開催

- ・1999～2005年は、2回/年実施
- ・2011、2016年は中止

- 複数回訪問都市
- 1回訪問都市
- 初期年2回時の夏
- ④ 旅行回
- ④ 初期年2回時の夏:7回
(6回≦隔回≦18回)



海外美術鑑賞旅行のあゆみ（アメリカ編）



30周年記念ギャラリートーク 2018年10月27日

ポーラ美術館コレクション

スペシャルギャラリートークに参加して

河合 美智子

爽やかな良い天気恵まれ、心躍らせて美術館へ向かった。ポーラ美術館コレクションを茨城で再び観ることができる。ルノワール「レースの帽子の少女」に会える。モネ、セザンヌ、シスレー、ディフィなどの作品に触れ合うことができる……。

プティ・ポワルで季節のランチを楽しんだ後、主任学芸員の澤渡さんから印象派の特徴やその展開、明るい色彩と光の表現など、詳しく丁寧な作品解説を伺いました。岡山県立美術館から茨城まで美術品輸送トラックに澤渡さん自らが同乗し、今回の作品を運んだというエピソードも伺いました。今回のお話は、私の学ぶ日本刺繍での糸の撚り具合、美しい線の刺し方などとも通じる所があり、より一層の研鑽の必要性を強くここに刻まされました。楽しい充実した時間でした。企画、運営なされた皆様に感謝いたします。

(日立市在住)



スペシャルギャラリートーク参加会員(後列左から2人目 筆者。前列右から4人目 澤渡主任学芸員)

30周年記念 瀬戸内へ

美術鑑賞旅行

2018年11月27日～29日の3日間、参加者42名は、大塚国際美術館、今治河野美術館、大原美術館、地中美術館及び大山祇神社、姫路城を訪れ、美術と史跡を堪能しました。



2018年「瀬戸内の美術館としまなみ海道」 3日間の旅に参加して

中根 克之



この旅に参加するにあたって思ったことが二つありました。一つは、茨城県近代美術館友の会会員になって30年近く経ったのだということです。私が水戸に勤務していた頃会員の募集があり、文化に少しぐらいお役に立てられればという思いで会員になりました。二つ目は企画書（旅行日程表）にぜひ行ってみたいところが3ヶ所あったことです。それは、四国、しまなみ海道、姫路城です。美術館巡りの旅なのに美術館が入っていないではないかとお叱りをいただきそうですが、美術に関心がないわけではありませんので、ご容赦いただきたいと思っています。

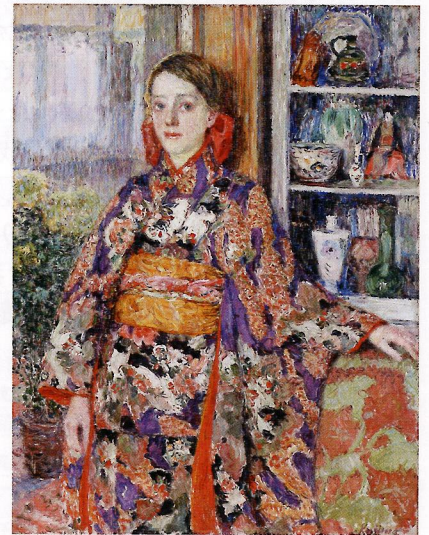
この旅の感想を記したいと思います。まずは大塚美術館のミケランジェロ作システィーナ礼拝堂の天井画「創世記」と正面壁画「最後の審判」には圧倒されました。

原寸大を見てそのすごさがよくわかりました。宇野港から直島への往復フェリーの旅は、四国と瀬戸内海の周辺地域が温暖であり、海産物、農産物に恵まれたとても素晴らしいところだとわかりました。また、姫路城は写真では見ていましたが、国宝に指定されているだけあってその優美さに見とれてしまいました。戦国時代にこんなものを作っていたのかと、あらためて日本人の物作りと感覚的表現の素晴らしさを思い知らされました。

この度、私にとっては久しぶりに豪華な旅を楽しむことができました。企画してくださった方々、ご一緒させていただいた方々にお礼と感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

一枚の絵を選んでくださいと言われました。大原美術館所蔵の児島虎次郎作「和服を着たベルギーの少女」です。ベルギーの少女がなぜか和服を着て、和洋の何とも言えない表現力を感じました。

(土浦市在住)



児島虎次郎「和服を着たベルギーの少女」
1911年／油彩・カンヴァス／116.0×89.0cm
／大原美術館蔵



大原美術館にて



大塚国際美術館システィーナホールにて



直島の地中美術館入口にて

アンケート「あなたと近美との一番の思い出は？」

友の会 30 周年記念アンケート裏面で、近代美術館・友の会との思い出に関して投稿を募集いたしました。皆様から寄せられた「声」をご紹介します。

「近代美術館は私の宮殿」

大橋 ひろ子

この度は、茨城県近代美術館、ならびに友の会設立 30 周年おめでとうございます！昔から絵の好きだった私は、子ども達が幼い頃から、夫に運転してもらって、つくばから近美へも、五浦の天心記念美術館へも何回となく通いました。120 回以上でしょう。もっと？

先年、東京の国立新美術館でルーベンス展を鑑賞の折、展覧会の副題は「ようこそ我宮殿へ」でした。それ以来、私は近代美術館へ行き、エントランスから二階へのスロープを登りつつ、辺りをながめ「ここは私の美術館であり、まさにようこそ我宮殿である」と思えます。これからなるべく永く足を運べます様に、頑張らなくてはと思います。

「茨城県近代美術館友の会」いついつまでもご発展をお祈りいたします。
(笠間市在住)

「旅こそ知的財産の累積」

樫村 忠芳

私は人生訓として旅こそ知的財産の累積、信条として真善美の追求の観点から県近代美術館友の会の旅行には積極的に参加し数多くの美術館の鑑賞ができました。日展と白日会展は毎年欠かさず鑑賞、その図録は本棚を飾っています。常陽藝文学院（石井勤先生講師）の油絵教室は 31 年通講を続けています。国内の主要な景勝地は限なく訪ね、海外はフランス パリは 3 回、ロンドン 2 回、ベルリンの壁開放 1 ヶ月後秋のベルリン、ロマンチック街道ハイデルベルグ、ローテンブルグ、ノイシュバンシュタイン城、ベルギー ブリュッセル、ブルージュ、ワテルロー古戦場の丘、イタリア ローマ、フィレンツェ、ベネツィア、スイスアルプス 4000 m クラス名山のトレッキング、旅の思い出は数 10 冊のアルバムに納め私の宝物になっています。特にカナダ バンクーバー、モントリオール、米国シアトル、サンフランシスコ、シカゴ、ニューヨーク、ワシントン、ハワイ 24 日間（1 弗 215 円）の旅は殊の外印象に残り広大なアメリカ大陸の雄大さに魅了されました。

(常陸太田市在住)

「本物に触れる」

秦野 弥代枝

展覧会にしても、旅行にしても、本物に触れる感動と喜びに接し、日々の生活に潤いを得ております。今後も、時間が許すかぎり、できるだけ参加しようと思っております。

旅行では、遠山記念館に行き、建物を拝見した時には、言葉につくせないものを感じました。こういうものを残してくれた実業家に感謝したいです。

(ひたちなか市在住)

「海外美術館巡りを目的に入会して」

山田 一二

確か 1994 年、友の会で海外美術館鑑賞旅行があると知り、入会した。当時まだ現役勤労者であったが、40 の手習いで、若いころからやりたかった油絵を近くの公民館で習い始めた頃であった。その頃東京で、マネの「フォリー・ベルジェールの酒場」を見て、すっかり虜になり、自分でも俄然描きたくなった次第である。

鑑賞旅行に参加するには、二つの課題があった。一つは、会社を 1 週間以上休まなければならないこと、他の一つは家の許可が必要であること。前者は、年休はたっぷりあるので、仕事を 1 週間分一応前倒しして熟したことにし、その間に会議等はいれないようお願いし、勤務評価の減点は恐れないと覚悟をした。この勝手を通してくれた同僚に感謝した。後者はただ说得である。

おかげで、連続 7 回参加した（その後早期退職し鹿児島で勤務したため一時退会）。会社を休んで旅行に行くということでもあり、極めて熱心に絵画鑑賞をしたり出歩き体験をした。多分、問題参加者であったであろう。以前出張の折、ニューヨーク近代美術館で見た「アヴィニヨンの娘たち」の、写真で見るとは全く違う雄大さに立ち竦んだ経験を、鑑賞旅行で何度も味わった。「ナポレオン一世の戴冠式と皇妃ジョセフィーヌの戴冠」＜オランジェリー美術館 睡蓮の間＞「ラス・メニーナス」＜プラド美術館 黒い部屋＞「ゲルニカ」「夜警」「デルフト眺望」「キリスト降架」・・・なんといってもコートールド美術館の「フォリー・ベルジェールの酒場」に。

毎年、よい企画を練ってくださる友の会企画委員の皆さんに深く感謝している。健康と旅費の捻出が続く限り参加させていただきたいと思っている。

(日立市在住)

「先生の笑顔にありがとう」

中村 美由紀

今月の「游美」が届いた。いつものように開くと、そこには武石絹枝先生の笑顔があった。私にとっては高校時代の美術の先生。中学とは違う専門的な事をたくさん教えてもらった。長い時を経て今は、人生の先生。

「游美」の中の先生のニコニコ顔を見て、拝読している私の方も知らず知らずにニコニコ笑顔になっていた。出会う人を、わらぼっちの絵を見る人をほっこり笑顔にする力のある絹枝先生。「游美」に載せてくれて、私からもありがとう！

近代美術館は、私にとって心も身体もリフレッシュさせてくれる重要な空間。時には作家の強烈なパワーに打ちのめされて、フラフラになって出てくる事もあるけれど、それも心地良い空間なのです。これからも通います。今までもありがとう。これからもありがとう。

(大子町在住)

「ボランティアの思い出」

柴 清一

土曜日の一日、美術に以前から興味があり近代美術館ボランティアがあることを知り、応募し早速登録をしていただき活動することができました。初めての日、職員の方の親切と多くの先輩の皆さんの本当にやさしい指導があって、何の不安もなく楽しく過ごせたことが思い出されます。

アートフォーラムでの図書の整理、チラシの配布など皆さんの手際の良さには驚くばかりでした。中村彝アトリエでは来客者との会話がとても楽しくて今でも昨日のような気がします。お昼の時間にはそれぞれの人が弁当を持参プラス1品位持ち寄り和気あいあい食べあつという間に過ぎました。

私は、美術館まで遠いので朝は早めに起きて出かけ遅刻はせずに通うことができました。帰りには「遠いんだから帰ったら」と言ってくれたり、当番の時何かと忙しく都合が悪い時など気持ち良く替わってくれたりして迷惑をかけていたのではないかとと思っています。

今では職員の方々やボランティアの皆さんとの活動が懐かしく思い出されます。

(桜川市在住)

「絵画にひかれて」

伊澤 利昭

私は、絵画をはじめ映画、音楽、演劇など、芸術分野を鑑賞したとき、必ず「鑑賞記録」(メモ)を残しています。長いことやっていますが、このたび「友の会」より自由投稿の募集がありましたので、思い向くまま応募しました。

メモによればこの30年間、絵画関係で「近美」「天心」両館の企画展は、計66回(近美36回、天心30回)足を運びました。これは私が国内外の絵画展を訪れた総数の約4分の1に当たります。66回は数が多いように見えますが、年数を重ねただけで年平均では2回余りと決して多い数ではありません。両館とも家(日立市)よりやや距離がありますが、企画展名にひかれ出かけてみると、そう遠い道のりではありません。ただ、総数においては年8回余りとなって、こちらはやや多

いかかもしれません。その影響か、絵画に対する愛着は、かなり深まりました。

日本画の多い「天心」では、大観を中心とする観山、武山、春草の作品を多数鑑賞しました。特に大観は「足立美術館」(島根県、H25)でも纏めてお目にかかり、その絵柄は掛け軸、色紙(何れも複写)などですっかりお馴染みになっています。

天心の唱える「空気を描く」を大観らが実践するも、後に「朦朧体」と批判を浴びる理由も知りました。他に上村松園、東山魁夷、小倉遊亀など、近現代の日本を代表する作家の作品にも多数接しました。

西洋画では、「近美」で「エルミタージュ美術館展」を2度(H5,H8)鑑賞しています。個々の作者、題名は正確に記憶していませんが、後にロシア旅行(H18)をしたとき、ペテルブルクの同館で同じような構図の絵に出会いました。異国の地での奇遇です。

また、視点を変えれば、「梅」「椿」など花を主題とした企画展(H17,H19)は、花好きな私にとって、大変ところが和みました。

これまで、両館を含め多くの場所で、多くの作品を観てきました。しかし、いま振り返ってみると数の多さは、読書でいう「多読」「乱読」に等しく、多くの本を急いでめくって来たように思います。もっと立ち止まってじっくり「精読」する必要性を痛感します。

終わりに、両館が美術作品の維持、展示に末永くご尽力下さるよう、望んで止みません。(日立市在住)

「私と近代美術館」

東 剛己

友の会に入ってどれくらいだろう。もう20年以上たつようだ。始めの頃は企画展に行くことが目的だったように思う。おそらく全ての企画展を見に行っていただろう。

コンサートや映画もほぼ毎行行った。特にコンサートはハーブやフラメンコなど、ロビーの空間を使った会場が楽しかった。

2000年くらいからは美術講座にもよく行った。デッサンやデジタルカメラ。造形で楽器をつくったり、楽しいイベントが多かった。

ところが2010年ころからあまり近代美術館に行っていない。理由の一つは引っ越して行きにくくなったこと。一つは絵を描く趣味をやめてしまったこと。

それに加えて美術館のイベントや企画展の内容も変わってきたように思える。何となくあえて行きたいと思えるようなものが少なくなったような。

地方の美術館は予算も少なく、集客も難しいと聞く。一方で美術が好きな日本人は多いとも言う。美術館が活気あると美術好きな私もうれしいので、せめてもっと足繁く近代美術館に行こうと思う。(つくば市在住)

学芸員に聞く

今回は、首席学芸員の今瀬佐和さんへのインタビューです。



今瀬佐和首席学芸員

雉や鶯など
大きな鳥が身近にいる
茨城の田園風景が
大好き

首席学芸員

今瀬佐和さん

志村ふくみ展

県近代美術館では今年4月6日から6月2日「志村ふくみ展－滋賀県立近代美術館コレクションを中心に－」が開催される。今回は担当学芸員の今瀬佐和さんにお話を伺った。

今瀬さんは1997年、天心記念五浦美術館開館準備室に入られた。もともと日本史に興味があり、大学の文学部で日本美術史を専攻。江戸から明治へ移りゆく時代に活躍した浮世絵版画家水野年方を研究した。当時最新の風俗版画「三井好 都のにしき」を語られる今瀬さんの口調は聞く者の好奇心と想像力をたくましくさせる。お話の端々にも今瀬さんが感度の良いアンテナを随所に立てている事がうかがわれる。学芸員の仕事の一端とそのプロの力量を垣間見た。川崎市のご出身、今は田園風景広がる水戸近郊の町での生活を満喫。3人のお子様を産休と保育園をフル活用、地域の方々にも助けられ育ててきた。オフは家族旅行やスキーにご主人と交代で長距離ドライブのハンドルを握る。なかなかの肝っ玉かあさんようだ。

志村ふくみは、自然の中から色を頂く植物染料で糸を染め、他に類をみない独特の世界観を織り出す染織家である。1924年近江八幡生まれ、今年95歳となる。1990年人間国宝となり、1993年文化功労者として顕彰

され、2015年文化勲章を受章した。

これまでも「志村ふくみ展」は各地で度々開かれてきたが、今回の企画は滋賀県立近代美術館のコレクションを中心に、志村ふくみの作歴の全貌をたどるこれまでにない構成となっている。コレクションの中核となるのが、志村ふくみの熱烈なる支持者、佐久間幸子さんが40年にわたり収集した60点余の作品である。志村ふくみ収集家として有名な佐久間さんは、川端康成氏や細川護立氏らの勲^{ひいき}賞を受け名を馳せた新橋の芸者さんである。志村ふくみの織り上げる美しい作品に魅かれ、毎年伝統工芸展の初日には三越の階段を駆け上がり、文化庁と競い合って手に入れてきた。命懸けの武勇伝が語り継がれる。

それほどに人を惹きつける志村ふくみの創り出すものは、染織だけにとどまらない。文筆家としての評価も高く、『一色一生』など多くの著書を世に送り出してきた。美しい色彩をもたらし自然に対する敬意を柔らかに瑞々しい感性で書き著わす。着物、手織り、植物染料など無くなりゆくものに対する想いを語りつつ、新しいもの若い人に心を寄せる。作品と文章併せて志村ふくみの世界が表現される。

会期中には講演会を開催。4月6日、長女で染織家の志村洋子氏、4月27日、郡山市立美術館長で志村ふくみ研究家の佐治ゆかり氏が講演する。前期後期と展示作品の入れ替えもあり多くの作品を鑑賞出来る。



まつかぜ 松風 2003年



夕顔 2003年



ごさち 五節(No.1) 1983年



みどう 聖堂 1989年
※全て滋賀県立近代美術館蔵



切り絵作家

富山 明峰先生を訪ねて

自然への探求 躍動する刃先

黒と白のコントラストを生かして、独特な切り絵の世界を描き続けている富山明峰先生を、常陸大宮市にあるアトリエにお訪ねした。繊細な切り絵に反し、大らかな先生のお話は、終始笑いの中に私達を引き入れて下さった。

先生と切り絵との出会いは、日本専売公社（現在のJT）入社後の18歳の時だった。定年後の事を考え何か趣味を持つよう先輩のアドバイスを受け、元々絵が好きだった先生は、「人のやらない事をやりたい」と切り絵を独学で始められた。この頃、切り絵の滝平二郎先生に弟子入りを願ったが、

「弟子はとらない」と断られ、試行錯誤を繰り返し、独自の世界を築かれた。雅号である明峰は、書家 関 南沖先生より頂いた。先生は、幼少より南沖先生の高弟、飯野伯亭先生に師事し書にも精通している。美への探究心は子どもの頃から培われてきたのであろう。

切り絵の歴史は古く、紙が出来た中国が起源とされ、小刀とハサミで切られた切り絵は剪紙と呼ばれ日本に伝わり、神事への切り紙として発展して行った。

平面切り絵の技法は、デッサンを描いた用紙を黒い紙に重ねて、デザインカッターで切り抜き、切り抜かれた黒い和紙の裏側にスプレー糊を吹きつけ白い台紙に貼り付ける。

先生の切り絵への想いは強い。西の内和紙の原料である楮の木を育て、和紙をすき、水戸黒（水戸藩主や家臣達が着用した黒紋付を染色した植物染料）ヤシャブシの実で染料を採り、漉いた和紙に何度も塗り重ね独自の黒を作り、染め上げた和紙で作品を制作。出来上がるのに1年もかかる作品もあるという。先生の代表作「故郷への飛翔」は、雄大な富士に五弁の白梅、飛び交う鳥たち、シャープな線の中に、躍動感と暖かさを感じる。独特な深みのある“和紙の黒”が作品を引立て、見る者を魅了する。

切り絵には平面切り絵と立

体切り絵があると言いながら、リズムカルに鋏を動かしあっと言う間に鶴の立体切り絵を切って立たせて見せて下さった。この二つを芸術作品として確立された数少ないお一人だ。

先生は日本きりえ協会の常任委員・公認講師を勤めておられる。2008



下絵なしで、作ってくださった立体切り絵（鶴）

年9月、パリで日仏交流150周年記念切り絵展が開催され、ドイツのメルケル首相が来館された。その折、首相が切り絵に深い関心を持たれたことからドイツの古城での展示が実現した。

切り絵が国内より海外での評価が高かった事に驚いた。「これからは、切り絵を芸術作品として見て欲しい。各分野の作家の作品を発表する場を数多く設けて欲しい」と強く語られた。自然の美を切り描く先生の更なるご活躍を願っている。



スプリングガーデン 1999年



春風に乗って 2006年



故郷への飛翔 2004年



藤の花咲く 2006年 ※作品の大きさは、全て30号

富山 明峰(とみやま めいほう)

1946 常陸大宮市生まれ
1965 JT(日本専売公社；現、日本たばこ産業)入社
2002 NHK 全国切り絵美術展「切り絵百景館」放映／群馬TV「明峰と切り絵の世界」放映
2008 日仏交流150周年記念「フランスきりえ展」(訪仏)
2009 日中友好きりえ美術展(北京美術館)
2012 茨城県天心記念五浦美術館「富山明峰・黒澤知慧美」きりえ展
2013 「魅惑のきりえ展」現代切り絵作家秀作展

主な受賞歴

全大蔵美術展関東甲信越展 特選7回
第37回 宮澤大蔵大臣賞 受賞
第39回 橋本大蔵大臣賞 受賞
全国切り絵美術展奨励賞 受賞
現在 日本きりえ協会常任委員・公認講師、水戸市芸術家連盟会員、常陸大宮大使、水戸大使
住所 茨城県常陸大宮市栄町1229-8

明峰

心に残る私の一点

「緑響く」

矢須恵 由



東山魁夷 「緑響く」
1982年／額装、紙本彩色／84.0 × 116.0cm
長野県信濃美術館東山魁夷館蔵

「心に残る私の一点」として強いて挙げるなら、東山魁夷の「緑響く」と言うことになる。魁夷について今更説明する必要はなかろう。昭和を代表する日本画家の一人で、文化勲章も受章している。当近代美術館で、1999年に「永遠の祈り—東山魁夷展」。また、2017年には「唐招提寺御影堂障壁画展」が開かれ、その大作の具有する壮大さと深遠さに胸を打たれたばかりである。

ところで、「緑響く」は魁夷の代表作の一つと言われるが、私は長野県信濃美術館東山魁夷館で目にした。2001年9月9日のこと。美術館に入って突き当りに、この絵だけが展示され

ていたと記憶する。杉の森一本一本ずつと白馬もろとも道を隔てた溜池に相似をなして逆さに映る構図。その時の感動、と言ったら、である。神秘に満ちた絶妙さは造化の極致。その描き振りの丹念さ、幽邃さ。その後、山種美術館と東京国立近代美術館でも魁夷作品に接する機会があった。ますます魁夷絵画に心惹かれる自分に気づいた。

何故絵を好むのだろうか。絵の世界は真・善・美に溢れ、魅力が一杯だからだ。絵はその画家の魂を宿す。それを「画魂」と呼ぶなら、その画魂に触れたい。私は魁夷の画魂に触れたいのである。（那珂市在住）

訂正

『游美』No.89、11頁“アンケート「あなたと近美との一番の思い出は？」”、左段10-11行「コートドール美術館」が間違っていました。正しくは「コートールド美術館」です。お詫びをし、訂正いたします。

あとがき

- 2019年3月をもちまして、友の会設立30周年記念年が終わります。会員の皆様のご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。友の会が、一つの軸となって、会員相互の親睦を図ることができるよう心から願っています。
- 2018年10月20日、絵画修復に関する有意義なご講演をしてくださった岩井希久子氏に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。
- 同日茶話会会場に掲示しました、友の会海外・国内美術鑑賞旅行のあゆみを、5～8頁に掲載しました。ご覧いただくと共に、今後とも友の会活動にご参加くださいますようお願いいたします。
- 友の会30周年記念アンケートで、寄せられた「声」を10～11頁に掲載しました。88号からのアンケート関連の記載はこの号で終了します。ご協力くださいました会員の方々、ありがとうございました。
- 児島虎次郎「和服を着たベルギーの少女」の画像掲載許可及び画像データを、大原美術館の森川政典氏から頂きました。また、認可手続きに同館の高橋弥恵氏にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。
- 東山魁夷「緑響く」の画像掲載許諾に関しまして、(社)日本美術家連盟事務局 池谷慎一郎氏及び東山魁夷記念一般財団法人 斉藤進氏から賜りました。また、掲載の承諾及び画像データを長野県信濃美術館館長 松本透氏及び同館事務所学芸課 赤津将之氏より賜りました。厚くお礼申し上げます。

茨城県近代美術館 友の会会報

游美 No.90

発行 2019(平成31)年3月
編集・発行 茨城県近代美術館友の会
〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL.029-243-5111
E-mail: f.momaibk@gmail.com

印刷 株式会社 光和印刷